

【考え・基礎知識】

箏曲の文化的・歴史的背景及び箏の奏法や音色について理解する。

【つながり】

箏の文化的・歴史的背景及び箏の奏法や音色について理解したことを生かし、創造的に表現することができる。

【応用・ひろがり】

日本の伝統音楽が演奏される演奏会を聴きに行ったり、箏以外の和楽器の演奏の技能を身に付けたりして、日本の伝統音楽の魅力を発信する。

- ◇ 学年 第1学年
- ◇ 題材名 日本の伝統文化の魅力～箏に親しもう～
- ◇ 題材の目標
 - ・ 箏の文化的・歴史的背景に関心を持ち、箏の奏法や音色を知覚・感受しながら、主体的に鑑賞することができる。
 - ・ 箏の音色や奏法の特徴を生かし、音楽表現を工夫して演奏することができる。

時	主な学習活動
1・2	○伝統音楽鑑賞会で聴いたプロの箏の演奏を思い出し、様々な箏曲を鑑賞したり、「さくらさくら」を演奏したりして、箏や箏曲へ関心をもつ。
3	○箏の音色や響きと奏法との関わりを理解する。→本時
4	○創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法等を身に付ける。
5	○箏の発表会を行う。

伝統音楽鑑賞会でのプロの演奏を想起させ、箏の演奏に対するあこがれをもたせる。基本的な奏法や姿勢等について、指導しておく。

箏の発表会を設定することにより、演奏を追究させる。

◇ 本時の目標 箏の音色や響きと奏法との関わりを理解する。

◇ 学習の流れ(3時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 課題意識をもつ。</p> <p>・ 箏曲『六段の調』を聴き、感じ取ったこととその理由を交流する。</p> <p>課題 箏曲『六段の調』の雰囲気を生み出すのは、どのような要素によるものだろうか。</p>	<p>◇ 感じ取ったこととその理由を交流させ板書する。</p>	<p>【課題発見】 前時の学習で箏の演奏に対するあこがれから、よりよい演奏をしたいという意欲をもたせ、どうやったら、よりよい演奏ができるか、課題意識をもたせる。</p>
<p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて 箏曲『六段の調』の冒頭部分の奏法を理解して演奏しよう。</p>		
<p>3 箏曲『六段の調』の冒頭部分の「引き色」の奏法を把握する。</p> <p>・ 箏曲『六段の調』のDVDを視聴し、音色や響き、奏法について気付いたことを出し合う。 (弦を引っ張ったり押したりしている。親指以外で弾いている。かすれた音がする。)</p> <p>・ DVDまたは教師の演奏を真似して演奏する。</p> <p>・ 音の高さの変化を表現できるよう、ペアで試行錯誤しながら練習する。</p>	<p>◇ 箏曲『六段の調』の冒頭部分をDVDで視聴させる。教師が演奏できる場合には、教師の演奏を視聴させる。</p> <p>◇ 冒頭部分の「引き色」の奏法のみ、DVDまたは教師の演奏を繰り返し視聴させ、見よう見まねで自由に演奏させる。</p> <p>◇ 生徒が弾けるようになってきたら、音の高さの変化に着目させる。静かな中で音を聴き合う場を設定し、気付きを出し合わせる。</p>	<p>「引き色」や「後押し」、「かき爪」の奏法を習得するために、演奏する場を多く設定し、音を伴う活動を通して口唱歌の効果を実感させる。</p>
<p>4 口唱歌について知り、口唱歌と箏の音色や響き、奏法との関わりを理解する。</p> <p>・ 教師の範唱に習って口唱歌を歌う。</p> <p>・ 口唱歌と箏の音色や響き、奏法との関わりについて気付いたことを出し合う。</p>	<p>◇ 「引き色」の口唱歌について説明した後、教師が「テーエントオンシャン」と口唱歌を歌い、生徒に真似をさせる。</p> <p>◆ 目を閉じて聴かせるなど音の響きに集中させ、口唱歌と箏の音色や響き、奏法との関連から感じ取らせる。</p>	
<p>5 2小節目以降の口唱歌を歌い、「かき爪」や「後押し」などの奏法について、ペアで練習する。</p> <p>・ 一人が演奏し、一人が口唱歌を歌うなどして、口唱歌を生かしながら練習する。</p>	<p>◇ 2小節目の口唱歌である「シャシャコーオロリチイ」を教師が歌い、口唱歌の「シャシャ」の部分が「かき爪」、「チイ」の部分が「後押し」であることを説明する。</p> <p>◆ うまくいかないペアについては、口唱歌と一緒に歌ったり、教師の演奏を見せたりする。</p>	<p>・ 箏曲「六段の調」の音色、リズム、旋律などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受している。</p> <p>【音楽表現の創意工夫】 (ワークシート・行動観察)</p>
<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>生徒のまとめ例 ・ 『六段の調』は日本らしさや落ち着きを感じる曲である。そのような雰囲気を醸し出しているのは、箏独特の奏法によるものが多い。「引き色」という奏法では、音を出した後に弦を引っ張り、音の余韻を変化させる。一つ一つの音を大切に余韻や間を生み出しているところが、日本らしさや落ち着きを生み出しており、余韻や間を表せる演奏ができるようになりたい。</p>		
<p>7 本時を振り返り、次時へつなげる。</p>	<p>◇ 生徒が感じ取った箏のよさを生かした演奏ができるよう、次時には練習を行っていくことを伝える。</p>	

